

平成29年度幼稚園における学校評価

篠山市立八上幼稚園

1 幼稚園・認定こども園教育目標等

<p>夢やめあてを持ち、生き生きと生活する園児の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの心を持ち、友だちと仲良く助け合える子 ・自分で決めたことに対して、よく考え、最後まで意欲的に取り組む子 ・心と体を鍛え、何事にも積極的に挑戦する子
--

2 今年度の重点目標

<p>(4歳児)・園生活に慣れ、教師や友だちとのかかわりを深めて安心して過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な事象に関心を持ち、自ら進んで活動し、見つけたことを自分なりに表現する。 <p>(5歳児)・園生活を楽しみ、運動や遊びを活発に行うとともに基本的な生活習慣を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの関わりを深め、意欲的、創造的に遊びや仕事に取り組み、経験を広め充実感を味わう。
--

3 学校自己評価項目の達成及び取組状況

(達成状況： Aよく達成できた B達成できた C課題がある D改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程	発達段階に応じて保育内容や指導方法を工夫し、自ら進んで活動ができるよう支援を行う。	A	クラス全体で、子どもが自分の思いや考えを伝え合う時間をとり、自分たちで考え、決めて活動していけるように心掛けた。
	のびのびと体を動かして、楽しく遊べる子を育成するために、環境づくりや援助のあり方の工夫に取り組む。	A	やってみたくなるような環境作りの工夫をし、仲間づくりなど人間関係が深まるように取り組んだ。安心して遊べるように、時間や場の確保をし、意欲的な取り組みになる言葉がけを行った。結果子どもたちで遊びを広げて楽しむようになった。
園児指導	保護者と連携して基本的な生活習慣や園生活のルールの定着を図る。	B	園だよりやクラスだより、連絡ノートなどとおして、啓発し定着するようにしてきた。後片付けについて課題を有する。
	篠山市ふた葉プロジェクトに基づいて、眠育、食育の指導を行う。	C	食べ物の好き嫌いや食事のマナーに課題が見られることから、子どもには指導を行ったり、育てた野菜を収穫してクッキングを行ったりしている。今後は園便り（食育だより）などで保護者に知らせていくようにする。
安全管理	防災・防犯・交通安全等の安全教育・訓練を行うと共に、緊急事態発生時の体制を整える。	B	小学校と一緒に避難訓練を行い、避難場所や経路等を知り、避難の仕方を身につけられるよう指導した。今後は防犯訓練や引き渡し訓練も小学校と一緒に実施していきたい。
	施設・設備の安全管理を確実に行う。	B	毎月安全点検を行い、必要に応じて修繕等を行っている。
特別支援教育	保護者と連携を密にし、一人一人の実態やニーズに応じた支援を行う。	A	発達についての相談が必要な園児には、保護者面談をし、相談に繋げることができた。連絡ノートや登降園時、毎日の子ども様子も保護者に伝え、理解を深めてもらえるようにしている。
	各種機関や専門家と連携し適切に支援を行う。	B	健康課や、発達支援センター、巡回相談等、連携を密にし、支援のあり方について理解を深めている。

4 幼稚園・認定こども園における学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・あいさつを習慣づけるには、いつも普通に声を出せばいいのだが、指導のタイミングとか方法（目標を設定するとかの）が大切。
- ・子どもが自分でできそうなことは、できるまでじっくり待つてやるのが大切。
- ・毎日の生活の中で創意工夫したり、振り返って思ったことを発表する場があるのがよいことである。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・1年間で子どもたちはずいぶん成長した。特にひらがなをよく覚えるようになった。今日の発表会では友だちのことを思いやる場面が見られてうれしかった。
- ・幼稚園で言葉集めをし、その言葉を先生がホワイトボードに書かれているので、自然にひらがなに興味を持ち、覚えるようになった。また中遊びと外遊びを子どもに選択させてもらえるのもうれしい。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

評価項目	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
発達段階に応じて保育内容や指導方法を工夫し、自ら進んで活動ができるよう支援を行う。	子どもたちが幼稚園へ行きたいと思っていることが一番よいことであり、幼稚園で本当に楽しく生活している様子を見ることができて嬉しく感じる。
保護者と連携して基本的な生活習慣や園生活のルールの定着を図る。	おはしの持ち方の指導は子どもの時にきちんと教えておく必要がある（持ち方を直させることも含めて）自分の食べ方が相手に不快感を与えるようではいけないので、きちんとマナーを身につけさせることが大切。
のびのびと体を動かして、楽しく遊べる子を育成するために、環境づくりや援助のあり方の工夫に取り組む。	子どもたちを個性豊かに伸ばしていただいている。地域の方とのかかわりがすばらしく、園児が感謝の気持ちを持っていることもすばらしい。
保護者と連携を密にし、一人一人の実態やニーズに応じた支援を行う。	特別支援について、みんながちがっていてもいいと思うが、一人だけ合奏に参加しなかった子がいた。集団生活の中で、無理矢理に行動させなかったことはよかったと思うが、周りの大人や子どもたちの理解を深めることが必要である。

